

東日本大震災による国立大学法人等施設の被害状況

先般の東日本大震災では、耐震性能が劣る施設の被害はもとより、耐震性能を有する施設においても内装材等（いわゆる非構造部材）にも大きな被害が生じたほか、老朽化により脆弱となった基幹設備（ライフライン）の多くが被害を受けた。

構造部材の破壊

建物崩壊には至っていないが、構造部材が大きく損傷（余震等で崩壊に繋がる危険性）。



東北大学（柱の崩壊）



東北大学（塔屋の崩壊）

非構造部材の崩壊

耐震化されていない非構造部材（天井、照明、内壁等）が崩壊。



東北大学（実験機器等の破損）



茨城大学（内装材の崩落）

基幹設備(ライフライン)の崩壊

老朽化したライフライン設備（ガス、給排水管、電気設備等）に損傷が生じており、電気、水道、ガスの停止により、教育研究活動が停止。



筑波大学（排水管の破損）



高エネルギー加速器研究機構
（受水槽の破損）

津波による建物等の損壊

津波による建物等の損壊や屋外施設の流出、浸水に伴う室内損壊などにより、壊滅的な被害を生じている。



東北大学（建物の流出）



東京大学（津波による建物等の損壊）